

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：35405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26420657

研究課題名(和文) ナショナル・トラストによる18世紀イギリス風景庭園の保存・復元手法

研究課題名(英文) The Conservation and Restoration of English 18th Century Landscape Gardens of the National Trust

研究代表者

真木 利江 (Maki, Rie)

広島女学院大学・人間生活学部・准教授

研究者番号：60343620

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、英国のナショナル・トラストによる庭園の保存・復元活動を対象とした。

クレアモント庭園の活動計画書(全9巻)の分析を通し、具体的提案は資料の有無や調査・研究の今後の可能性、維持管理の問題が総合的な検討にもとづいていること、活動目的である「全体的な調和」に関しては、必ずしも明瞭な指標が示されていないことを明らかにした。また、トラストによる活動の変遷と、2つの先駆的事例における庭園構成の特徴を復元する手法を明らかにした。トラストの保存理念は設立当初の「永久保全」から「変化の注意深い管理」へ変化しており、庭園の保存理念の変遷を新たな研究課題として提示することができた。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the garden conservation by the National Trust of England (UK). Through the investigation of 'Claremont Conservation/Action Plan' (vols. 9), the following two points were clarified: 1) the concrete recommendations are based on the existence of historical materials, the possibility of further research development, and the necessity of maintenance; and 2) the meaning of the vision of 'overall unity' is not exactly clear. This research has also studied the transition of garden conservation by the National Trust of England, the Trust's conservation policy which had changed from 'the permanent preservation' to 'the careful management of change,' and the way of garden restoration in two pioneering examples. Moreover, a new research subject was found, which is concerned with 'the transition of policy of garden conservation.'

研究分野：建築学

キーワード：ナショナル・トラスト 風景庭園 保存・復元

1. 研究開始当初の背景

近年、建築単体の保存・活用にとどまらず、都市的な文脈や景観との関係を包含した歴史的環境を保存し活用するさまざまな試みが展開されている。建築単体の保存・活用に関しては、どの時代のどの設計・建設行為に価値を見いだすか、歴史的・文化的重要性について研究と実践が重ねられているが、より複雑な変遷を持つ歴史的環境については、複合的な観点からの歴史的・文化的価値に関する知見が必要とされている。

本研究は歴史的環境の保存・活用に関する議論の参照点として英国のナショナル・トラスト (National Trust for Places of Historic Interest or Natural Beauty、以下トラスト) による 18 世紀イギリス風景庭園の保存・活用事例に注目する。風景庭園は 18 世紀の間に複数の所有者、複数の造園家によって既存の庭園に手が加えられる形で発展した。こうしたあり方は「重ね書きの庭」と呼ばれ、風景庭園の大きな特徴の一つとなっている。19 世紀以降これらの庭園は貴族階級の衰退や都市近郊の宅地開発を背景に、地所の解体と庭園の荒廃が進み、20 世紀以降トラストは多くの風景庭園の地所取得、調査、保存・復元を進め、一般公開にいたっている。その過程では復元・整備の方針決定等において、事例ごとに歴史的環境に関する価値判断が示されていると考えられる。

1895 年 3 人の市民の手で始められた英国のトラストは現在、自然保護団体としてまた土地所有団体としてその歴史的環境・自然環境の保存・継承活動が広く知られており、日本をはじめ世界各国で同様の取り組みが展開されている。しかし、トラストによる出版物がパンフレット類を中心に膨大な数に上る一方で、トラスト自体に関する研究は、成立史もしくは税制やボランティアに関する制度論を中心とするものに偏っている。日本においては社会科学分野を中心に研究が重ねられているが、建築や造園分野においてはトラストによる保存・復元を基礎として研究が行われるにとどまり、その活動の実際から保存・活用の特徴や手法を明らかにする研究は行われていない。

2. 研究の目的

本研究課題では、トラストによって 20 世紀後半を中心に組み込まれている 18 世紀風景庭園の保存・復元活動を対象とし、歴史的環境の保存・復元手法を明らかにする。とくにクレアモント庭園とストウ庭園を中心的な対象として、それぞれの地所取得、調査、復元・整備、管理の具体的な流れを整理し、各段階での組織体制および、復元・整備の方針決定における価値判断の方法を明らかにすることを目的とする。図 1 にクレアモント庭園の最大の特徴であるアンフィシアターと池周辺の変遷を示す。

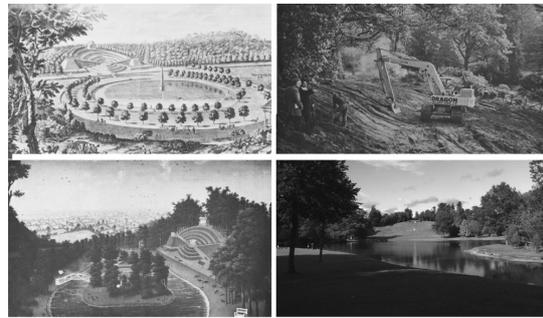


図 1：クレアモント庭園のアンフィシアター周辺の変遷と現在
 左上：円形池とアンフィシアター (1720、作者不明、Sothby's 所蔵)
 左下：18c 中頃、池周辺が大幅に変更される (c. 1740、作者不明、個人蔵)
 18c 後半にはアンフィシアター全体に植栽が施された。
 右上：1976 年アンフィシアター復元工事の様子
 (The National Trust, Claremont Landscape Gardenより転載)
 右下：現在のクレアモント庭園、池越しにアンフィシアターをのぞむ
 (2010 年筆者撮影)

3. 研究の方法

次の手順で研究を進めた。

- (1) トラストにおける庭園の保存・復元活動の変遷および風景庭園の位置づけを、先行研究を通して明らかにする。
- (2) 現地調査とヒアリング、資料収集・分析を通して、クレアモント庭園、ストウ庭園の保存・復元活動の実際と特徴を明らかにする。
- (3) トラストによる庭園の保存・復元活動において先駆的な事例となった庭園の、構成の変遷及び、保存・復元活動の方針を明らかにする。

4. 研究成果

本研究課題の成果を下の 3 点にまとめて示し、最後に今後の展望を示す。

「2. 研究の目的」の通り、研究開始当初はクレアモント庭園とストウ庭園における保存・復元活動の実際を対象とする予定であったが、資料収集・分析を通して、具体的な対象はクレアモント庭園とし、風景庭園に限定しないトラストによる庭園保存・復元活動の変遷を明らかにすることとした。ストウ庭園に関しては、2015 年度にストウ庭園シニア・ビジネス・サポート・コーディネーターである Sue Jordan 氏よりストウの保存計画書 (Stowe Conservation Plan) の一部を受領しヒアリングを行ったが、トラストへ委譲された時期が比較的新しく、現在、重点的に先行研究の整理及び調査・復元活動が進行中であり、クレアモント庭園と状況が大きく異なっていること、トラストによる庭園保存・活動の変遷自体が、研究の対象として意義が大きいことが理由である。

(1) トラストによる庭園保存・活動の変遷 (学会発表④)

(1)-1. 庭園保存・復元活動に関する資料

主に次の資料にもとづき、1985 年トラスト設立から 1983 年イングリッシュ・ヘリテイジ (English Heritage) によって初めて庭園が登録されるまでを 4 つの期間に区分し、庭園の保存・復元活動の変遷の様相を明らかにした。National Trust: *Rooted in History*, 2001/James Lees-Milne ed.: *The national Trust: a*

record of fifty years' achievement, Batsford, 1945 / National Trust: *The National Trust: The First Hundred Years*, BBC Books and National Trust, 1994 / Howard Newby ed.: *The National Trust: The Next Hundred Years*, The National Trust, 1995

(1)-2. 保存・復元活動の変遷

第1期(1895-1936)はトラスト設立と1907年ナショナル・トラスト法、1931年財政法の改正等、法整備が進められた期間である。設立時「永久保全」を目標としていた。第2期(1937-1947)はカントリー・ハウス計画(Country Houses Scheme)に始まり、この期間に多くの庭園がカントリー・ハウスに付随してトラストへ委譲されるが、庭園の歴史にはほとんど興味が払われていなかった。

第3期(1948-1964)は王立園芸協会(Royal Horticultural Society)との共同でガーデン計画(Garden Scheme)が開始され、トラストによる意識的な庭園群の取得が進む。新しい管理・保存方法の確立がめざされた時期でもある。財政上の問題から、多くの庭園はその管理を自治体や委譲元にゆだねる状態が続き、保存・管理の基準は多様なものとなった。

第4期(1965-82)1965年にガーデン・ヒストリー・ソサイエティが設立され、トラストはネプチューン計画(Enterprise Neptune)と呼ばれる海岸線保護の活動を開始する。庭園については1960年代以降、現在に直接つながる先駆的な復元・再創造の試みが、1970年代に体系的な植物調査や現地調査が開始される。

(2) クレアモント庭園における保存・復元活動の特徴(雑誌論文①、学会発表③)

(2)-1. クレアモント庭園の活動計画書

2015年トラストのサリー州ガーデンズ・アンド・カントリーサイド・マネージャーであるSusan Fryer氏よりクレアモント活動計画書(*Claremont Conservation / Action Plan*、以下、計画書)の提供を受け、ヒアリングを実施した。計画書は9巻構成で、第1巻が全体概要、7巻分が庭園のエリア別詳細、最終巻が全体を集約した内容となっている。

計画書の目的は「長期的な維持管理戦略とコストの想定、地所のスタッフに歴史的重要性を損なうことなく業務を行う最善の方法を示すこと」にあり、「法的合意や助成金に関する手助け」になることとされている。詳細かつ網羅的に先行研究と現地調査に検討が加えられる一方で、日々の業務において常に参照可能な資料としてもまとめられている。主に最終巻にもとづき、庭園の将来像と具体的な目標、クレアモント庭園の最大の特徴のひとつであるアンフィシアター(図1参照)に対する具体的な提案を取り上げた。

(2)-2. 将来像と目標

庭園全体の将来像は「理想的風景としての特徴、複合的な設計、全体的な調和を復元・強調し、実行可能であれば、近代の介在を避

け、転換しまたは調和ある全体像を求めることで、王室と貴族階級によるプレジャー・グラウンドとして示すこと」とされ、庭園の発展は明瞭な時期区分は示されていないものの、造園に携わった造園家、所有者により大きくヴァンプラとブリッジマン(第1期)、ケント(1730s-40s, 第2期)、ブラウン(1770s, 第3期)、プリンス・レオポルド(19世紀初頭, 第4期)とされている。

具体的な目標は6点にまとめられている。1~3点目で、庭園内部を時代をまたいだ複合体とする方向性が明示され、4~6点目が隣接する庭園外部との今後の関係についての目標が示されている。庭園内に牧場や耕作地を抱えることも多い他の庭園に比較すると、トラストが所有するエリアがかつてのプレジャー・グラウンドに限定されていることが、方針を明瞭にしていると考えられた。

(2)-3. アンフィシアターへの提案

クレアモントの造園はアンフィシアター全体としては第1期の骨格が保たれた第2期の状態へ、しかし頂上のマウソレウムは第4期の状態へという方針であった。全体に帯する提案は、第1期に造園が行われたアンフィシアター自体の歴史的な重要性・現存例としての特異性、第2期に関して現存する資料に関する研究の発展性が理由である。一方、頂上のマウソレウムに関しては、4期の王室との関係を示す庭園内の数少ない事例であること、第1期に同じ場所に建築物が存在していたことが理由である。根拠資料は計画書第6巻に詳細に論じられていた。第1期の骨格を重視した上で多層性を保持するという全体の方針に則したものであるが、資料の有無や調査・研究の今後の可能性、維持管理の問題にも大きく左右されているということを明らかにした。

また、目指される将来像としての「全体的な調和」については、必ずしも明瞭な指標が示されているわけではないことを指摘した。

(3) トラストの先駆的復元事例の報告(学会発表①②)

(1)の研究成果にもとづき、クレアモント、ストウの他、トラストの庭園保存・復元活動において特に重要な位置を占める庭園群の内、次の庭園の現地調査と資料収集を2014, 2015年度に行った。Osterley Park, Knightshayes, Westbury Court Garden, Croome Park, Hidcote Garden, Moseley Old Hall, Wakehurst。このうち、ウェストバリー・コート・ガーデン、クルーム・パークの2庭園について保存・復元時期を含めた構成の変遷について研究報告を行った。ここでは2庭園の保存・復元活動の特徴を示す。

(3)-1. ウェストバリー・コート・ガーデン

ウェストバリーは1960年代にトラストにより庭園保存・復元が開始された先進的な事例で、17世紀末オランダ式庭園の希少な現存例である。また、現在の庭園は、洪水の影響

で植物が疫病菌の被害を受けており、気候変動や植物種の保存など、より広い視野で庭園保存のあり方を見直す契機の一つとなっている庭園でもある。1705-10年に制作された詳細な鳥瞰図と、1698年から1704年の間の、灌木、果樹、野菜等の購入記録が現存しており、復元における中心的な資料として参照されている。

南北方向に区画された平坦なウェストバリーは、植栽による幾何学的な構成を基本とし、地所の西に位置する邸館とパーテラ、その東に南北に延びる2つの運河に沿った細長い構成と見通しを特徴としていた。復元においては、邸館とパーテラが既に失われ、土地も他の所有者によるものとなっていたため、復元においては、2本の運河を中心とし、パーテラを本来の位置とは異なる場所に再現している。また、野菜園、ウォールド・ガーデンを中心に、当時の記録を参照して植物が収集され、育てられている。運河による中心的な構成の復元と、歴史的な資料にもとづく特徴的な要素の、本来とは異なる場所への再現が組み合わされている。

(3)-2. クルーム・パーク

クルーム・パークは風景庭園の完成者とされるブラウンが、初めて地所全体の設計に携わった庭園として知られている。保存・復元に関する調査の中で、現在の庭園が結果的に稀少な動植物相を支えていることが明らかとなり、復元の方針決定において、今後の動植物相への影響に検討が加えられた庭園である。

庭園は、プレジャー・グラウンドの広がり、邸館、教会、神殿が周縁に位置する牧草地の広がり、周縁に建築物が点在する林苑全体の広がり、3つのスケールによって構成されていた。これらが組み合わせられることで、比較的平坦な広がりを見せる地所全体に、多様な眺めの体験をもたらしていた。トラストによって取得された範囲は限定的であるが、プレジャー・グラウンド、邸館等の建物と牧草地、林苑周縁の建築物が保存・復元されることで、主要な構成と眺めが継承されていることを明らかにした。

(4) まとめと今後の課題

本研究課題では、英国のナショナル・トラストによる庭園の保存・復元活動を対象とした。代表的風景庭園のひとつであるクレアモント庭園の活動報告書の分析を通して、具体的な保存・復元手法を明らかにすることができた。また、トラストによる庭園保存・復元活動の変遷と、2つの先駆的事例において庭園構成の特徴が復元されている手法を明らかにした。

トラストの保存理念は設立当初の「永久保全」から「変化の注意深い管理」へ変化している。今後の課題として、具体的な事例分析の蓄積とともに、庭園の保存理念の変遷を提示することができた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 真木利江、クレアモント庭園の解体と復元のはじまり、日本建築学会中国支部研究報告集、査読無、第38巻、pp. 953-956、2015.3

[学会発表] (計 4 件)

- ① 真木利江、クルーム・コートの変遷、2018年日本建築学会大会(東北)学術講演会、2018.9.6 発表予定
- ② 真木利江、ウェストバリー・コート・ガーデンの変遷、2017年度日本建築学会大会(中国)学術講演会、梗概集 891-892、2017.9.2
- ③ 真木利江、ナショナル・トラストによるクレアモント庭園の行動計画、2016年度日本建築学会大会(九州)学術講演会、梗概集 pp. 665-666、2016.8.26
- ④ 真木利江、ナショナル・トラストによる庭園保存活動の変遷、2015年度日本建築学会大会(関東)学術講演会、梗概集 pp. 839-840、2015.9.6

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

真木 利江 (MAKI, Rie)

広島女学院大学・人間生活学部・准教授
研究者番号：60343620

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし